

公聴会 意見書 2024.3.4

2002年10月7日付 熊日新聞 声より

『2日本紙朝刊に、次回の「川辺川ダムを考える住民討論集会」に向けた事前協議が載っていました。

9月15日、私は県庁で開催された川辺川ダム問題についての第四回住民討論集会に参加しました。ダム建設を主張する国土交通省と、ダムは要らないとする住民側が7時間もかけて討論しました。もちろん結論が出たわけでもないし、双方が歩み寄ったわけでもありません。ダム問題に関するすべての議題が論議されたわけでもありません。

難しい言葉が飛び交う集会の席で、私が何より感じたのは、県の将来を見据える大事な場に私が居るということでした。この場に参加できて嬉しい。県の政策を決める重要な討議の場に、県民の一人として参加し、ジャッジすることができるという喜びです。

ともすれば、私たちが知らないうちに大事な問題が決まり、えっと思うこともあります。しかし、納税の義務を果たしている当事者として、ダム建設をめぐる論議に参加でき、双方の説明を聞き、ダム問題についての判断を下す。このことがまさに潮谷知事（当時）の言われるパートナーシップそのものではないでしょうか。

「国は説明責任を果たしてほしい」「いまだ論議は尽くされていない」として知事は住民討論集会の継続を主張されました。環境問題や財政問題をはじめ、ダム問題は解決しなければならない多くの課題を抱えていると思います。

今まで蓄積されたすべての情報を出し合い、双方がとことん議論を尽くす。そしてそれを見届ける私たち県民は、その是非を自分で下す。これこそ民意を問うものとして最良の方法だと思います。

私はこのような場を設定された潮谷知事（当時）に感謝しています。どうか軽々に結論を出すのではなく、県民が納得できるまで討論会を続けてほしいと願います。』 投稿者：須藤久仁恵

20数年前、初めて五木村を訪問し、わずかに民家が残っていた頭地集落から川辺川に下り、その美しさ、清冽さに目を奪われた強烈な記憶があります。この豊かな川を、ダムで汚してはならない、川をせき止めてはならないと思ったことが私の根っこにあります。

2008年9月、蒲島県知事は9月県議会の場で、川辺川ダム建設の白紙撤回を表明されました。これでダム建設は消え、流域の自然は守られる。球磨川の治水は、ダムありきではなく、河床掘削や堤防建設や山の再生などの様々な手立てを使い、地元住民とともに作り上げる複合的な総合的治水対策として生まれるのだと期待しました。ところが、流域治水は遅々として進まず。そればかりか、「川のここに堆積している土砂を除去してほしい」「堤防を…、嵩上げを…」と訴える流域住民の声も国や県には届かず、放置され続けていたと聞き及んでいます。

川のこと、鮎のこと、川藻のこと。あるいは山のこと、田んぼのこと…を誰よりも知っている流域住民の声が事業者・為政者に届かなくなりました。住民と為政者の関係への異議が私にはあります。

次に、今回の国交省が実施した「環境影響評価準備レポート」について述べたいと思います。時系列的にいきます。

◆2021年5月21日、赤羽一喜国交大臣（当時）は記者会見で「川辺川でのダム建設に向けた環境影響評価（アセスメント）を実施すると発表しました。時期は今後調整するとしています。（日経新聞記事より）

◆2022年7月28日、熊本の樺島熊本県知事は「流水型ダム建設」について、「異存なし」の態度を表明。国の球磨川整備計画案が動き出します。

◆2023年9月5日 国交省は5日、川辺川に建設する（という）流水型ダムの「環境影響評価準備レポート」の作成に向け、前提となる流域の環境影響調査の概要を公表、と新聞は伝えています。

つまり、2021年5月の時点で「時期は今後調整する」と言われていた流域の環境影響評価（アセスメント）が、2023年5月にはすでに終了し、レポートの作成へと進んでいる、ということになります。

更に事態は急ピッチで動きます。

以下は八代市のホームページより。

◆2023年11月28日 国土交通省九州地方整備局により「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポート」（以下「準備レポート」）が作成され、令和5年11月28日に公表されましたので、お知らせいたします。

◆縦覧期間：令和5年11月28日（火曜日）から令和5年12月28日（木曜日）まで

環境影響評価法に準じ、準備レポートの公告・縦覧及び準備レポートに対する一般意見聴取、準備レポート説明会が行われます。

◆意見書提出期間：令和5年11月28日（火曜日）から令和6年1月11日（木曜日）まで

いつ、どこで、だれが流域のどの部分の環境について調査をしたのでしょうか。この分野については誰それが、ここについてはどの担当が……すべて国交省がしたのか、あるいは委託にだしたのか、委託先は？などの具体的な内容は明らかになっていません。公表していただきたいと思います。2008年、多目的ダムとして計画された川辺川ダム建設はいったん白紙になりました。その白紙になった時点での「影響評価」内容を、目的の異なる治水専用の流水型ダム計画にそのまま持ってきて、今回のレポートとしてまとめたのでしょうか？

2020年7月4日に球磨川流域を未曾有の大水害が襲いました。その前と後の川の違いだけ取り上げても、二年や三年の短期間の調査でまとめられるはずがありません。アユの生態についても、川の水質、水生動物、堆砂の変化についても、山の植生についても、同様ではないでしょうか。いずれにしても、今回国土交通省がまとめたレポートは、容認することができません。わずか二年半という短い期間でまとめられたレポートそのものへの不信感、それを是とする熊本県への不信感が残ります。

あと一点。2024年2月4日。国交省は五木村で環境影響などの説明会を開催し、そこで「大型模型実験施設」の見学を実施しました。流水型ダムであれば、環境にも影響はでない、という意図だと思いますが、プラスチックの模型と木々や草がしげり、ある場所では砂が堆積したり、水がよどんだり急流になっている現実の自然界の川が同じだといえるのでしょうか。モデルで「実害はでない」と言い切るのには、あまりにも安直で軽々しい、机上の空論ではないでしょうか。

樺島熊本県知事が川辺川ダム堰堤に「プロジェクトマッピング」を映し出し、観光客を誘致したらいい、というなんともな発言をしたように。ちなみについ先日、東京で行われたその費用は10億円かかったとか。

最後になりましたが、 蒲島知事、県庁の担当者の皆さん

聞き置きます。という対応はしないでください。当該の地元住民、川と生きている方たちの声を聞いてください。

無表情で対応するのはやめてください。正面から私たちと向き合ってください。私たちも同じ人間です。潮谷前熊本県知事が訴えておられたパートナーシップの意味を、もう一度考えてください。

以上です。